

■（１２８）ネット世界の裏を暴いた「良心」はどう育まれたのか

「不正アクセスによるお客様情報流出により、多大なるご迷惑およびご心配をお掛けしていることを深くお詫び申し上げます」。かつてクレジットカードで買い物をした会社から突然届いた謝罪メールで、他人事だった個人情報の漏洩が、一気に身近な問題となった。

それほど神経質になる個人情報を、米政府が極秘に大量収集していたと、英国や米国の新聞が暴露した。「告発」したのは、情報機関で働いていた２９歳男性。たとえテロ対策名目でも、「良心が許さなかった」という。

新聞社がこの男性と接触したのは２月で、新聞社は特ダネ情報に色めきたただろう。ただ、矛先は巨大な権力となるので、担当記者ならば「確実な証拠がほしい」と考えたはずだ。男性は５月に職場から「機密文書のコピー」を持ち出した。翌６月になって告発記事が掲載された。書かれた米政府も記事内容を認めざるをえない状況で、記者ならば誰もが感心するような、見事な報道の流れだった。

さらに驚いたのは、情報源がすぐに名乗り出たこと。「匿名」で他人を批判する書き込みが飛び交うネット社会で、強い「良心」はどう育まれてきたのか。興味は尽きない。（山）